

INFORMATION AND KNOWLEDGE NEWS

情報知識学会ニューズレター

1995 6.1

32

情報知識学会事務局 発行 〒110 東京都台東区台東1-5-1 (凸版印刷株内) TEL03(3835)5692 FAX03(3837)0368 ISSN0915 1133

焼肉定食は四字熟語か？

Giovanni M. da Zama

今号に自然言語処理に関する研究が紹介されていることに触発されて、日本語における熟語について述べる(とはいっても、研究者仲間との雑談の記録にすぎない)。

話しの発端は、有名な「焼肉定食」についてである。どこかの入試で「□肉□食」という穴埋め問題に「焼肉定食」と入れて合格した受験生がいるという笑い話である。もちろん出題者が望んでいた解答は「弱肉強食」である。ところで、「焼肉定食」は四字熟語だろうか？小生には、「弱肉強食」のように四字が揃って始めて固有の意味を持つものだけが四字熟語であるような気がする。

話しは飛んで、「理論富士通研究所」という言葉をみつけた。ある国家プロジェクトの理論部門の一部として参加している富士通研究所という意味らしい。英語名称は「Theory Fujitsu Laboratory」である。英語にすると非常に奇異に見えるのだが、漢字8文字にすると、(「理論」がどこにかかるかは不明だが)英語名より奇異さが薄らぐように感じる。やはり、日本語では、単語を並べるだけで「熟語」になるのだろうか？ちなみに、この場合、「富士通理論研究所」とすれば全く異なる意味になってしまう。

話しはまた飛んで、文章内に漢字が並んでいる箇所(2字/3字/4字/5字……)の分類に関する研究が行なわれている。まず膨大な電子化されている文章群から連続する漢字を切り出し、次にそれらを分類してゆく。機械的に切り出してくるわけだから、どう考えても「熟語」とはみなせないものも研究対象となる。おそらく、自然言語処理において、漢字が続く箇所を切り分ける方法を確立するための基盤となる研究なのだろうから、熟語であるかどうかより単語と単語の関係の方が重要なのであろう。

ところで、「三字熟語」「四字熟語」「五字熟語」は「四字熟語」だろうか？日本語はとも難しい。

目 次

焼肉定食は四字熟語か？	1	国際フォーラム「危機管理への提言」の案内	10
IPAL の紹介	2	著作権シンポジウム開催のお知らせ	10
専門用語研究会発表募集	5	「危機管理教育」懇談会の案内	11
IPA におけるコーパス作成の取り組み	6	情報知識学会誌論文募集	11
NIFTY-Serve の歴史フォーラムの案内	9	平成7年度総会報告	12

『計算機用日本語辞書 I P A L (IPA Lexicon)』の紹介

情報処理振興事業協会 (I P A) 桑畑和佳子(kuwahata@stc.ipa.go.jp)

特別認可法人情報処理振興事業協会 (I P A) では、1981年10月の技術センター発足当初から情報処理分野における日本語処理の重要性に着目し、日本語辞書『I P A L』の研究・作成に取り組んでいる。これまでに、『動詞辞書(和語動詞861語)』、『形容詞辞書(136語)』を作成し、報告書形式及びフロッピー形式で配付してきた。

現在は、『I P A L 名詞辞書』の開発を行っている。一部427語分のデータを、第一版として昨年10月よりネットワーク上にてFTP公開している。

本稿では、『I P A L 名詞辞書』の概要と、アクセス方法について紹介する。

1. 『I P A L 名詞辞書』の記述項目の構成

『I P A L 名詞辞書』は、『統語情報』『意味情報』『形態情報』『慣用表現』に関する記述から構成される。

- | | |
|--------|--|
| 《統語情報》 | 項としての用法, サ変動詞用法, 述語としての用法,
連体修飾を受ける用法, 連体用法, 連用用法 |
| 《意味情報》 | 意味記述, 意味素性, 同義語, 類義語, 対語, 形式名詞, 意味分類 |
| 《形態情報》 | 表記, 合成語, 異音同語, 非転成, 助数詞 |
| 《慣用表現》 | 慣用句, ことわざ, 常套句 |

我々は、見出し語のもつ用法を意味だけからではなく統語的特徴からも分類し、これを「下位区分」と呼んでいる。例えば、見出し語「反響」は、「反響する」というサ変動詞用法のある「1.音が物体にあたってはね返ること」と、サ変動詞用法はなく、「反響を呼ぶ」のように用いられる「2.影響を受けて世間に起こる反応」の二つに下位区分される。

また、結びつく述語によって焦点があてられる、見出し語のもつ様々な側面を「意味素性」と呼んでいる。例えば、「額にかいた汗をぬぐう」という時、「汗をかく」では「汗」のもつ生理現象という側面に焦点があてられており、「汗をぬぐう」では「汗」のもつ物質的な側面に焦点があてられている。また、「汗が流れる」という時は、液体的な側面に焦点があてられている。つまり、「汗」には<PHE:生理的現象の側面><CON:物質的側面><LIQ:液体的側面>の三つの意味素性があるということになる。この時、<PHE>の欄には「かく、出る、吹き出す、おさえる、かきやすい」など、<CON>の欄には「ぬぐう、臭う、洗い流す、べとつく、多い、少ない」など、<LIQ>の欄には「流れる、にじむ、乾く、たらず、ぬらす」などの述語が結びつくことが示される。

『I P A L 名詞辞書』では、『慣用表現』の記述は見出し語ごとに、『形態情報』『統語情報』『意味情報』に関した記述は「下位区分」ごとに記載している。そして、『統語情報』の一つである「結びつく述語」や、「意味記述」以外の『意味情報』に関した記述は、さらに「意味素性」別に記載している。それらの記述のおおまかな構造を次に示す。

0. 見出し語情報

見出し・見出し語ごとの表記・慣用表現・他の合成語（下位区分から外れた合成語）

……ひとつの下位区分……

1. 下位区分内容一覧

区分番号・下位区分ごとの表記・意味記述・例文

異音同語（例：にほん→にっぽん）・非転成（例：ながれ→ながれる）

A 形態情報

合成語の構成要素・構成要素の表記・合成語

（例：あめ→〔あめ〕模様，〔あま〕傘，〔う〕量）

……A－構成要素の数
だけ繰り返し

……ひとつの意味素性……

B 項になる用法

意味素性

文型・先行句・共起述語

（例：ね→ニ+ね+ガ+からむ，伸びる）

C 意味情報

同義語・類義語

対語・形式名詞

助数詞

……B，C－意味素性の数だけ繰り返し

D 連体・被連体

*NP0は見出し語

NP0ノ・NP0ナ（例：いろいろ→いろいろの／な楽しみ）

ノNP0（例：ふね→＜所有者＞日本の船，＜目的＞救助の船）

E 外の関係の連体修飾

S・Sという・副詞句

（例：よかん→あの時は〔賞がとれる〕（という）予感があった。）

F サ変動詞用法

文型・意味素性・名詞句・例文

（例：ほしょう→警察は親に子供の無事を保証した。）

G／H 述語用法

文型・意味素性・名詞句・例文

（例：きゅうくつ→この服は窮屈だ。）

……1. 下位区分一覧表以下－下位区分の数だけ繰り返し

2. 辞書データの形式

『IPA 名詞辞書』のデータは次の3つの形式で公開する予定である。

(1) カンマ引用符形式

『動詞辞書』と『形容詞辞書』は、この「カンマ引用符形式」と呼ばれる形式のテキストで公開してきた。これは、市販のデータベースソフトに載せる時に便利な形である。ただし、『名詞辞書』では一レコードがかなり長いものもあるため、市販のデータベースソフトで使用するには、注意を要する。

(2) プレインテキスト形式

項目名とデータが対になっており、辞書の内容がそのまま読み取れる形式である。

(3) IPALES形式

S G M L 風にタグづけされている。I P A で開発した「IPALES (IPA Lexicon Editing System)」というデータベースソフトで用いている形式である。

3. IPALES (IPA Lexicon Editing System)の概要

《IPALES》は『名詞辞書』を開発する際に用いたもので、複数に分かれている辞書データベースをネットワーク上に分散配置し、マルチ・ユーザによる編集を可能にしたデータベースシステムである。高速検索機能、レコード単位でのロック機能、誤編集時の復元機能がある他、仕様の変更に合わせたデータ構造の変更が簡便にでき、1フィールド中に任意個のデータを記述できる項目も扱える。この《IPALES》は、研究用途に限りフリーで公開する。動作環境はS U N O S 4.1.3 であるが、C 言語でかかれているのでU N I X の環境であれば動作可能であろう。

4. F T P アクセス

現在、『動詞辞書』、『形容詞辞書』、『名詞辞書第一版』（カンマ引用符形式）、及び《IPALES》のF T P 公開を行っている。

```
* FTP site:  ftp.mgt.ipa.go.jp:/pub/ipal      『動詞辞書』 『形容詞辞書』
               ftp.mgt.ipa.go.jp:/pub/nouns1  『名詞辞書第一版』
               ftp.mgt.ipa.go.jp:/pub/jedit   《IPALES》
* Format:      unix tar
```

現時点で有償なのは、『動詞辞書』、『形容詞辞書』の解説書の購入及び、フロッピィを郵送してコピーする場合に伴う実費である。『名詞辞書』に関連した報告書は、秋頃に販売を開始する予定でいる。購入申込、フロッピィのコピー申込は、I P A 事務局までお問合わせください。(I P A : TBL. 03-3437-2301 代表)

第9回専門用語研究会シンポジウム
国際関係とターミノロジー

研究発表募集のお知らせ

専門用語学会は、1988年に、「学門分野での効果的な意思の疎通、円満な情報の伝達を促進させる為に作り出される各分野に固有の学術用語を研究すること」を目的に設立され、以来活発な活動をしてきました。研究の性質上、情報知識学会の会員の方々の関心も高いことから、本年は情報知識学会と共催でシンポジウムを開催いたします。

日時：平成7年12月2日（土） 午後 1:00～5:00
（会場は追ってお知らせいたします）

専門用語の研究には、用語の翻訳や標準化に代表されるように、国際的な視野が強く求められます。そこで今回は「国際関係とターミノロジー」というテーマでシンポジウムを開きます。シンポジウムの報告は、「専門用語学会学会誌第12号」に掲載されます。どうぞ奮って御応募下さい。

応募要項：

- *発表時間は40分、質疑10分
- *応募締切は平成7年7月15日

応募方法：

下記申し込み用紙に記入の上、〒167 杉並区上荻4-4-5-101 長瀬真理宛に、郵送又はFax（03-3395-8608）にてお送り下さい。審査の後7月31日迄に結果をお知らせします。

第9回専門用語学会シンポジウムの発表に応募します。

氏名

所属

住所 〒

連絡先電話番号

題名

発表内容

0. はじめに

IPA技術センターでは、動詞・形容詞・名詞辞書を作成する過程で見出し語の分析のために新聞、教科書、文芸作品などの実例をデータベース化してきた。けれども単語分割や品詞情報付加などの手を加えていないため、検索効率が悪い。そこで今回、一部のテキストに対し、単語分割と品詞情報付加を行なうことにした。

欧米に比べ、日本ではコーパスと呼ばれるような電子化された言語データの作成および共有が遅れている。IPAのような公共機関が、電子化データを公開することが望ましい。そこで、単語に分割し、品詞情報を付加したデータベースを、「IPAコーパス」と名付け、一般公開することにした。公開時期は、今年度夏を予定している。

当稿では、IPAコーパスに収録するテキストや、付加する品詞情報について報告する。

1. 収録するテキスト

IPAコーパスには、大きく分類して次の五つのタイプの文章を収録する。

一つは、公開済みのIPA L動詞辞書、形容詞辞書、名詞辞書に収められている意味記述文および文例であり、約15000文である。これらは、IPA L辞書を利用する際に有用であると同時に、基本語の意味・用法をある程度網羅したものであるため、品詞情報が付加されたものがあれば、形態素解析や構文解析の評価のための例文集としても適切である。

二つ目は、『日本語表現文型 中級』（筑波大学日本語教育研究会, 凡人社, 1983）の中に収められている、「文型・文法」欄の例文約1600文である。これは、日本の大学あるいは大学院に留学する一般外国人留学生を対象とした中級程度の日本語教材であり、一般的に日本の大学で要求される理解・表現の型が分類・整理されているものである。どの例文も基本的な文型に沿ったものであるため、これも形態素解析や構文解析の評価のための例文集としても適切であると考えられる。

三つ目は、岩波ジュニア新書7冊の文章であり、約13000文ある。中学生・高校生を対象に科学的な問題を平易に解説した文章である。構文構造、意味構造さらには文脈構造の分析にも有益なテキストとなるであろう。

四つ目は、岩波新書13冊分の文章で、約28000文ある。文化・科学・政治等の問題をその道の専門家が広く一般の読者のために書き起こした論述文である。先にあげた岩波ジュニア新書よりも文章の難易度は高い。岩波新書は、その内容や知名度からも日本語のテキストコーパスとして適していると思われる。

最後に、大学入試問題の現代国語の出題文64テキスト中の約2700文である。大学入試問題を取り上げたのはそれぞれが日本の著名な作家の著述物であり、長い作品の一部分とはいえ、論旨の展開が見られ、内容豊富なものである、と判断したからである。文芸

作品もあり、修辭的な表現も含まれている。

以上、約60000文を収録する。比較的入手しやすい新聞記事などは避け、一般には入手が難しく、文章の質の高いものを収集するよう、努力した。難易度的にもバランスのとれたものになっていると考えられる。

2. タグセット（品詞体系）

いわゆる形態素解析で出力するような形態素を単位とするのではなく、なるべく単語を単位として分割することが望ましいが、実際の「語」の認定には、構文解析を必要とする。そこで今回は、形態素単位での分割を行なった。それぞれの形態素には、読み、終止形、品詞を付与するが、付加する品詞も形態素解析レベルで判断できるものとした。

品詞体系の作成や、それぞれの単語についての品詞の認定は非常に困難な問題である。単語に付与した品詞には、主観を含まざるを得ない。利用者が自分の研究目的に合わせて自由に取捨選択あるいは変更して利用できるように、ということを心がけてタグセットを作成した。基にした文法や用語なども統一しきれていないところも多いが、特に、学校文法の扱いと異なるような箇所には括弧つきで学校文法の品詞を付加しておくなど、利用者のカスタマイズが簡便に行えるように考慮してある。

品詞については、第1レベルとして、次のものをたてた。

- | | | | | |
|---------|----------|---------|----------|----------|
| (1) 名詞 | (2) 動詞 | (3) 形容詞 | (4) 形容動詞 | (5) 副詞 |
| (6) 連体詞 | (7) 接続詞 | (8) 助詞 | (9) 助動詞 | (10) 感動詞 |
| (11) 記号 | (12) その他 | | | |

これらの第1レベル12種の品詞に対して、必要に応じ第5レベルまで、言語学的に妥当で、かつ言語処理に有用と思われるような分類を加えてある。

品詞の付与にあたっては、一般公開されている形態素解析システムJUMANのエンジン、および同じく公開されている「汎用日本語形態素解析規則」の辞書と規則を用いた。その出力に対して、複数の形態素をつなげ、タグを付与するツールを作成した。この結果を人手で見直し、最終的に「正解」と判断されたものが記載される。ところで、正しい品詞の決定には意味や文脈を必要とする。例えば、「テレビを見るがいい」における「が」は接続助詞（「テレビを見るが、いいですか」の意）と格助詞（「（そんなに言うのなら）テレビを（好きなだけ）見るがいい」の意）とが考えられる。この判断には、文脈の解析が必要となる。今回作成したタグセットは、人手による見直しの工程を重視したものである。完全に形態素解析レベルで付与できるタグセットを考えるならば、また別のものを用意するべきである。

3. コーパスの公開形式

コーパスの作成で最大のネックになる問題は、著作権の問題である。今回のコーパス作成にあたっては、出版社、文芸著作権者保護同盟、文化庁などの担当者との相談を重ねた。

その結果、著作者の許諾が得られるものは表1の形式で公開し、著作者の許諾が得られないものは、原文を再現せず、表2のように出現形態素リストとして公開するよう検討している。

表1 コーパスの公開形式1（著作者許諾あり）

〔出現形〕	〔読み〕	〔終止形〕	〔品詞〕		
状況	ジョウキョウ	状況	名詞		
が	ガ	が	助詞	格助詞	
まったく	マッタク	まったく	副詞		
変わっ	カワッ	変わる	動詞	五段・ラ行	連用タ接続
て	テ	て	助詞	接続助詞	
しまい	シマイ	しまう	動詞	五段・ワ行促音便	連用タイ接続 非自立
、	、	、	記号		

表2 コーパスの公開形式2（著作者許諾なし）

〔出現形〕	〔読み〕	〔終止形〕	〔品詞〕			〔単語ID〕
おもり	オモリ	おもり	名詞			IJ050080057015
おやじ	オヤジ	おやじ	名詞			IJ030020080021
おやつ	オヤツ	おやつ	名詞			IJ020020049001
およそ	オヨソ	およそ	副詞			IJ050040093014
およそ	オヨソ	およそ	名詞	接頭辞	数接続	IJ050030266010
および	オヨビ	および	接続詞			IJ010020085028
およぶ	オヨブ	およぶ	動詞	五段・バ行	見出し形	IJ050020097020
およん	オヨン	およぶ	動詞	五段・バ行	連用タ接続	IJ030010139005

4. おわりに

日本でも欧米のようなコーパスの共有化を、という機運が高まり、いくつかの機関でテキストデータのコーパスに対する議論や実際のコーパスの作成が着手されている。しかしプレーンテキスト化による特殊文字の処理、分割する形態素の単位、付与するタグなど解決すべき問題点は多い。さらに一層の各機関の協力が必要であろう。

〔謝辞〕 データの利用を許可して下さった筑波大学日本語教育研究会および岩波書店に感謝の意を表する。

〔参考文献〕 橋本三奈子, 荻野紫穂, 徳永健伸, 元吉文男, 井佐原均「IPAコーパスの概要」『IPALシンポジウム'95』情報処理振興事業協会(1995)

NIFTY-Serve の歴史フォーラムへおいでください

〔１〕情報知識学会の専用会議室が開設されました

パソコン通信ネットのNIFTY-Serve には、数多くの興味深いフォーラムが設けられ活動しています。その中のひとつ「歴史フォーラム」は広く歴史全般にわたって愛好し、あるいは研究する人の集まる場です。

そのシスオペの児島さん（当学会会員）はじめ皆さんのご尽力により、本年４月から「歴史フォーラム本館」の中の１６番会議室が学会専用として開設されました。学会員相互の交流のためおおいに利用してください。また、大勢の方に情報知識学会を知ってもらう目的で非会員にも開放しています。

１６番会議室に入るには、NIFTY-Serve にログインした後、GO FREKIと入力します。そしてメニュー画面が現れたら、３：電子会議を選びます。次の画面に１～２０の会議室リストが出て、その１６番が当学会の専用会議室です。どうぞお気軽に書き込んで会員の皆さんと親睦を深めて下さい。

〔２〕メンバーズパックを無料で差し上げます

NIFTY-Serve から情報知識学会に、「ニフティサーブ・メンバーズパック」が提供されています。まだ、NIFTY-Serve に入っていない方を対象に、これを先着１０名様に無料で差し上げます（学会員に限る）。

これには、使用権(¥4,000)付登録用シリアルナンバー／アグリーメントナンバー、入会説明書、アクセスガイド(¥2,000)、コマンドノート、フォーラムリスト、コンピュサーブ使用権(\$12.5)がついて税込¥5,150です。葉書またはFAXで事務局へお申込ください。順次、郵送します（送料も事務局負担します）。

入手された方は必ず入会登録し、前述の歴史フォーラム本館（FREKI）１６番会議室を活用し、読むばかりでなく、ご自由にお気軽に、たくさん書き込んでください。

〔３〕電子メールで速報をお届けします

当学会の行事計画など、事務局が得た情報をニューズレターより早くお知らせすることができます。ご希望の会員は、PC-VAN、E-mailなどのID番号を事務局へご連絡ください。NIFTY-Serve の会員の方は、前述の１６番会議室をご覧ください。

本学会後援 国際フォーラム 「危機管理への提言」 参加のお勧め

藤原 鎮男

当学会後援、国際科学振興財団（会長 吉山博吉日立相談役）主催で、頭記の国際集会が開催されます。会場の定員は200名ですが、本学会関係者は、個人参加費5千円で学会でとりまとめて30名参加出来ます。（規定参加費は2万円）。奮っての御参加をお勧めいたします。参加御希望の方は、至急学会事務局までお申出下さい。（締切6月末日）。講師は当代最高の方々でありますので、貴重な機会となりましょう。同時通訳も予定されています。

なおお申込に対し参加可能となった方には、事務局から御連絡しますので、当日までに、会費を予め下記に御送金下さい。

三和銀行 秋葉原東口支店 普通預金口座 360-6590 情報知識学会；または、郵便口座 00150 8 706543 情報知識学会

- 1 会議名称「安全・危機管理への提言」
- 2 日時 平成7年7月18日（火）、19日（水）10.00-18.00
- 3 所 千代田区大手町2-3-6 三菱総研セミナールーム
- 4 プログラム 第1日：「災害対応に官民のなすべきこと」フレッチャー米国FEMA危機管理部長；「兵庫南部地震からの教訓」防災科学技術研大谷圭一部長；「活断層への備え」衣笠善博地質調査所主席研究官；「安全技術における後追いと先取り」井清武弘；「原油事故対応」マクリス米国EPA化学危機管理部長；パネル討論（I）

第2日「OECD危機管理ガイドライン」ブライヤーOECD経済・環境部長「社会構造を考慮した危機対応を」ダインズ デラウェア大学教授；「極限ストレス下の人間行動」トンプソン ロンドン大学医学部講師；「危機管理の概念とヒューマンエラー」ラスムッセン 前リソー研究所計算機センター所長、パネル討論（II）

付記 なお、7月20日（木）午後には「危機管理の教育」を主題にした懇談会が予定されています。（案内別記）



第3回著作権シンポジウム開催のお知らせ

情報知識学会では、早くから積極的に著作権問題に取り組み、シンポジウムや勉強会を開催して参りました。又それらの成果は学会誌やニューズレターに報告されています。

今回は各種メディア毎に著作権の専門家をお招きして、それぞれの分野の最新の動向と問題点をお話し頂くことに致しました。

日時 1995年 9月 22日（金）（3:00 p.m.～6:00 p.m.）
場所 凸版印刷株式会社

プログラム（案）

- 1)電子図書館の著作権： 小守利雄氏（日本科学技術情報センター）
- 2)ネットワークの著作権： 名和小太郎氏（新潟大学教授）
- 3)電子出版の著作権：（未定）

コメンテーターは吉田正夫氏（弁護士、三木・吉田・室町法律事務所）です。

なお詳細は次号に掲載されます。

情報知識学会懇談会「危機管理教育」参加のお勧め

情報知識学会事務局

主催 情報知識学会 共催 国際科学振興財団 後援 凸版印刷株式会社

日時 平成7年7月20日 14.00-16.30(懇談会) -19.00(懇親会)

ところ 学士会館本館 203号室

千代田区神田錦町3-28(電3292-5931)

話題提供：藤原鎮男, Mr. R. Fletcher, Jr., 米災害対応庁(FEMA)部長, Mr. J. Makris 米環境庁化学災害対応部長.

演者紹介： Fletcher 部長は近年の地震、火事その他の諸災害のほとんどすべてに、対応の指揮をとった危機管理の権威であり、Makris 部長も、インドボールの化学工場事故、アラスカ原油、湾岸戦争時の油事故など多くの化学事故に当たって、その処理をした権威者です。国際科学振興財団のフォーラムのため来日された機会に本会会員と表題の件で懇談して下さいることになりました。

事故予防や、事故への対応をいかにしたらよいか。現在、学校、公共機関そして企業が、対応のマニュアルを作り、研修を進める必要が説かれています。このことについて、先導的権威からお話を伺うことが出来るのは得難い機会です。お差し繰りの上奮って御参加下さい。参加御希望の方は下記に電話またはFAXでお申込下さい。

会費(懇親会費を含む)：一般1万円、学術機関関係者5千円 当日受付にて定員30名、申込締切6月30日

お問い合わせ先：凸版株式会社気付情報知識学会事務局 五所吉哉

電 03-3835-5692、FAX 03-3837-0368

XX

情報知識学会誌論文募集

情報知識学会誌は昨年度から年2回の発行となりました。今年度も既に複数の会員から投稿方法のお問い合わせがあり、また実際の投稿も海外を含めて何件か来ております。そこで、今回のニューズレターで下記のとおり、広く会員各位にご投稿を呼びかけることに致しました。皆さま奮ってご投稿ください。(文責 編集委員長 石塚英弘)

記

1) 募集する原稿の種類

原著論文と総説で、日本語または英語で書いたもの。主題は本学会の対象とすることであれば特に限定しません。採否は、査読委員の意見を基に決定し、著者に連絡します。

2) 原稿の構成

表題(和文と英文)、著者名(和文表記と英文表記)、著者所属(和文表記と英文表記)、要約(和文と英文)、本文(和文または英文)、文献リスト、注、表、図など。

3) 原稿の作成法

原稿のうち、図表以外のテキスト部分は3.5インチFD(2HD, 2DD)とその紙出力(2部、うち1部は査読用)で、図や表は紙(2部)でお出し下さい。ファイル形式は、MS-DOSのテキスト形式、OASYS、MS WordやWordPerfectのRTF(Rich Text Format)の何れかをお願いします。

4) 原稿の送付先 (封筒に「学会誌原稿在中」とお書きください)

〒110 東京都台東区台東 1-5-1 凸版印刷(株)内 情報知識学会事務局

平成7年度総会報告事項

1. 平成6年度事業報告

①会議

・平成6年	5月23日	18:00～20:00	理事会	凸版印刷
・平成6年	5月28日	15:45～16:15	総会	凸版印刷
・平成6年	7月18日	18:00～20:00	理事会	凸版印刷
・平成6年	9月12日	18:00～20:00	理事会	凸版印刷
・平成6年	12月5日	18:00～20:00	理事会	凸版印刷
・平成7年	2月24日	18:00～20:00	幹部会	凸版印刷
・平成7年	2月27日	18:00～20:00	理事会	凸版印刷

②講演会・セミナー

- ・国際情報ドキュメンテーション連盟第47回国際会議（共催） 平成6年10月3日～9日実施
実行委員会会長：藤原鎮男会長 於：大宮ソニックシティ
- ・理研シンポジウム「蛋白質の構造・機能予測」（共催） 平成6年12月21日実施
担当：菅原秀明理事 於：理化学研究所 鈴木梅太郎ホール
- ・「1995年・情報学シンポジウム」（共催） 平成7年1月12～13日実施
実行委員：石塚英弘理事 於：日本学術会議講堂

③刊行物

・ニューズレター	25号	平成6年4月1日発行
・第2回（1995年度）研究報告会講演論文集		平成6年5月28日発行
・ニューズレター	26号	平成6年6月1日発行
・ニューズレター	27号	平成6年8月1日発行
・情報知識学会誌第4巻第1号（FID特集号）		平成6年10月1日発行
・ニューズレター	28号	平成6年10月1日発行
・ニューズレター	29号	平成6年12月1日発行
・情報知識学会誌第4巻第2号		平成6年12月20日発行
・ニューズレター	30号	平成7年2月1日発行

2. 今年度事業計画

①会議

- ・平成7年 5月27日 16:30～17:00 総会実施
- ・理事会 年5回開催

②講演会・セミナー

- ・安全・危機管理フォーラム（国際科学振興財団と共催）平成7年7月18～19日開催予定
- ・著作権勉強会（仮題）主催 平成7年9月22日開催予定
- ・「第5回・歴史研究と電算機利用」ワークショップ（人文社会系部会）9月9～10日予定

- ・'95 国際数理地質学会（地質学会、大阪市と共催） 平成7年10月29日～11月2日開催予定
- ・「1996年・情報学シンポジウム」 平成8年1月17日～18日開催予定
- ・ターミノロジー「脳と用語」 開催日未定
- ・理研シンポジウム「先端的研究機関における情報環境」（共催）詳細内容、開催日時未定
- ・その他 S G M L ・ C A L S 関連、マルチメディア対応など

③刊行物

- ・ニューズレター 第31号～36号発行予定
- ・学会誌 第5巻第1～2号発行予定
- ・学会誌特別号「安全・危機管理」
- ・第3回（1995年度）研究報告会講演論文集発行

3. 役員人事

会長	藤原 鎮男	東京大学 名誉教授
副会長	藤原 譲 安澤 秀一 月見里 禮次郎	筑波大学 教授 駿河台大学 教授 凸版印刷(株) 顧問
理事	芦崎 達雄 有川 節夫 石塚 英弘 岩田 修一 開原 成允 加藤 寛次 (新任) 後藤 智範 小山 照夫 菅原 秀明 高橋 靖明 田隅 三生 次田 皓 長瀬 眞理 中山 堯 名和 小太郎 西脇 二一 根岸 正光 (新任) 平尾 陽一郎 藤代 一成 松田 芳郎 山本 昌弘	日本科学技術情報センター 九州大学 教授 図書館情報大学 教授 東京大学 教授 東京大学 教授 (株)日立製作所 主任研究員 神奈川大学 教授 学術情報センター 助教授 理化学研究所 凸版印刷(株) 本部長 東京大学 教授 東京理科大学 教授 城西国際大学 助教授 神奈川大学 助教授 新潟大学 教授 奈良大学 教授 学術情報センター 教授 大日本印刷(株) 本部長 お茶の水女子大学 助教授 一橋大学 教授 日本電気(株) C & C 研究所長
監事	穴戸 駿太郎 米田 幸夫	環日本海経済研究所副理事長 東海大学 名誉教授

平成6年度 収支決算

収 支 計 算 書		平成6年4月 1日から 平成7年3月31日まで		(単位：円)
	予 算 額	決 算 額	差 異	
収 入 の 部				
1. 会費収入				
法人会員会費	1,620,000	1,588,867	－	31,133
個人会員会費	1,335,000	1,195,105	－	139,895
2. 事業関係収入				
学会誌・別刷代	100,000	150,400		50,400
講演論文集代	70,000	103,000		33,000
3. その他の収入				
雑 収 入	100,000	86,000	－	14,000
預金金利	10,000	2,261	－	7,739
当 期 収 入 合 計 (A)	3,235,000	3,125,633	－	109,367
前 年 度 繰 越 金	2,882,720	2,882,720		0
収 入 合 計 (B)	6,117,720	6,008,353	－	109,367
支 出 の 部				
1. コーディネーター 編集部門				
印刷代・送料 (含む未払費用)	1,800,000	2,203,455		403,455
編集経費等	50,000	49,769	－	231
2. 学会誌編集部門				
印刷代・送料 (含む未払費用)	1,000,000	1,381,632		381,632
編集経費	100,000	0	－	100,000
原稿料	100,000	0	－	100,000
3. 企画部門				
セミナー備品等	150,000	0	－	150,000
講師謝礼等	50,000	10,000	－	40,000
4. 研究報告会				
講演論文集印刷代	100,000	115,000		15,000
懇親会経費	70,000	108,692		38,692
5. 総務部門				
F I D準備費	100,000	85,121	－	14,879
理事会実施費用	200,000	150,903	－	49,097
6. 事務局・その他				
事務用品代	50,000	19,809	－	30,191
通信費	250,000	77,491	－	172,509
印刷代 (封筒等)	150,000	26,192	－	123,808
振込手数料	10,000	5,562	－	4,438
総会実施経費	100,000	37,140	－	62,860
その他	100,000	17,362	－	82,638
	(計4,380,000)	(計4,288,128)		(計－ 91,872)
次 年 度 繰 越 金	1,737,720	1,720,225	－	17,495
当 期 支 出 合 計 (C)	6,117,720	6,008,353	－	109,367
当期収支差額 (A)－(C)	－ 2,882,720	－ 2,882,720		0
次期繰越収支差額 (B)－(C)	0	0		0

情報知識学会決算書・予算書

1. 平成6年4月1日から平成7年3月31日までの決算書

(単位：円)

収入の部		支出の部		
収入科目	収入金額	部 門	使用科目	使用金額
前年繰越金	2,882,720	ニューズレター 編集部門	印刷代	2,203,455
会費収入*	2,783,972		編集経費等	49,769
利息	2,261	学会誌編集部門	印刷代	1,381,632
学会誌・別刷代	150,400		編集経費	0
懇親会参加料	86,000		原稿料	0
講演論文集代	103,000	企画部門	セミナー備品等	0
			講師謝礼等	10,000
		研究報告会	講演論文集印刷代	115,000
			懇親会経費	108,692
		総務部門	F I D準備費	85,121
			理事会実施費用	150,903
		事務局・その他	事務用品代	19,809
			通信費	77,491
			印刷代(封筒等)	26,192
			振込手数料	5,562
			総会実施経費	37,140
			その他	17,362
		小計		4,288,128
		予備金(次年度繰越金)		1,720,225
合計	6,008,353	合計		6,008,353

2. 平成7年度予算書

(単位：円)

収入の部		支出の部		
収入科目	収入金額	部 門	使用科目	使用金額
前年繰越金	1,720,225	ニューズレター 編集部門	印刷代・送料	2,000,000
会費収入*	2,640,000		編集経費等	50,000
利息	5,000	学会誌編集部門	印刷代・送料	300,000
学会誌・別刷代	50,000		編集経費	0
懇親会参加料	100,000		原稿料	0
講演論文集代	70,000	企画部門	セミナー備品等	0
			講師謝礼等	20,000
		研究報告会	講演論文集印刷代	120,000
			懇親会経費	100,000
		総務部門	入会案内作製費	100,000
			理事会実施費用	150,000
		事務局・その他	事務用品代	50,000
			通信費	100,000
			印刷代(封筒等)	30,000
			振込手数料	10,000
			総会実施経費	50,000
			その他	5,225
		小計		3,085,225
		予備金(次年度繰越金)		1,500,000
合計	4,585,225	合計		4,585,225

*会費収入は平成7年3月31日現在の会員数(別表)より算定

貸借対照表		平成7年3月31日現在（単位：円）		
科 目		借 方	貸 方	
1	資産の部 現金預貯金	3,361,869		学会誌、ニューズレター 平成7年度年会費
2	負債の部 未払費用 前受金	0	1,641,644 1,437,430	
3	正味財産 (内当期正味財産増加額)		282,795 * (-2,599,925)	
合 計		3,361,869	3,361,869	

*前年度までの貸借対照表とは表示方法を変更しました。
平成7年3月31日までに前納された平成7年度年会費の¥1,437,430を正味財産から差し引いたため、前年度に比べると当期正味財産のマイナス金額が大きくなっています。

<会員数の件>

	H 6, 3, 31現在	H 6, 4, 1 ~ H 7, 3, 31		H 7, 3, 31現在
		入 会	退 会	
正会員	265人	38*	10	293人
学生会員	4人	0	1*	3人
賛助会員 ()は口数	19法人 (54)	0 (0)	5 (11)	14法人 (43)
合 計	288	38	16	310

* 学生会員1名は卒業により正会員に変更

編集後記

長瀬先生の編集長としての最後の仕事だというのに、私のミスで発行がかなり遅れてしまいました。最後の最後まで迷惑をかけてしまいました。どうもすみません。(蓬萊)

退任のご挨拶

本号の発行を最後に、神奈川大学理学部情報科学科の後藤智範先生と編集長を交代することになりました。1991年6月1日発行の第8号以来、4年間にわたりご支援を頂きましたことを厚く御礼申し上げます。お陰さまで2ヶ月に1度、無事ニュースをお届けすることができました。

ニューズレターの命はフレッシュな原稿です。どうぞこれからも一層のご協力を賜りますようお願いいたします。

長瀬真理